

白河高校同窓会報

発行所
郵便番号 961-0851
福島県白河市南登り町54
白河高校同窓会
☎0248-24-1116
発行人
鈴木雅文
編集委員長
堀川哲雄
(有)古楓堂堀川印刷所

創立100周年記念式典を挙行

福島県立白河高等学校創立100周年記念式典は、令和四年十月二十二日(土)午後一時より、白河文化交流館コミネスにて約八百三十名の参加をもって挙行された。新型コロナウイルス感染症対策の為、式典への参加者を生徒及び関係者等に絞らざるを得ず、また、参加するにあたっては、手指消毒・マスク着用といった基本的な感染症対策に加え、一週間前から体温を測定するなどの健康観察を行った上での「体調チェックシート」の提出を求める等の厳しい拡大防止策を講じての開催であった。

記念式典に先立ち、午後零時三十分よりオープニングセレモニーとして『登龍』(白河高校百年の歩み)と題した白河高等学校の百年の歴史を振り返る映像(DVD)が上映された。上映終了後、一旦、緞帳が下りるとともに会場が明るくなるも再び照明が暗くなり緞帳が上がると、壇上には主催者並びにご来賓の皆様が揃っており、壇上後方の大型スクリーンには、校歌に謳われた「那須の峰」「阿武隈の水」「小峰城」「南湖」と「校

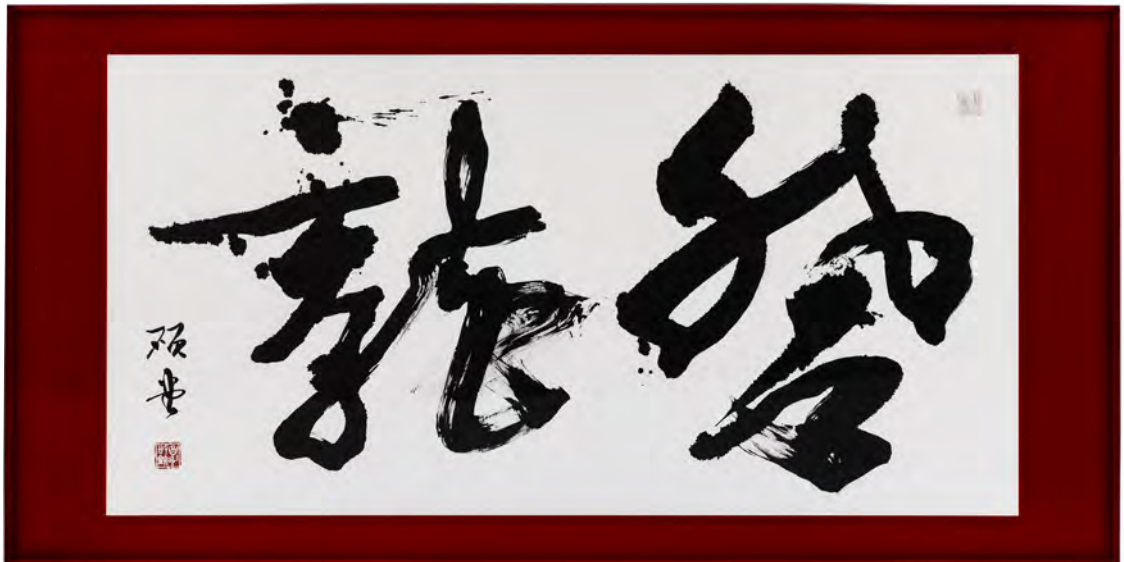
舎・校庭に集う生徒達」を撮影したオープニング映像が流れ記念式典がスタートした。会場の照明が再び点灯すると壇上の大型スクリーンには国旗と県旗が映し出され、会場後方より、旗手・寺山華さん(昨年度生徒会長・3年)、同じく旗手・穂積真緒さん(昨年度生徒会副会長・3年)にそれぞれ保持された旧制白河中学校校旗、新制白河高校校旗が入場、それぞれの校旗は、壇上にて鈴木雅文創立100周年記念事業実行委員会委員長(同窓会長・高28)、矢森健一校長(第37代・現)に引き継がれ、お二人の手により壇上中央の演台の両側に飾られた。

次に、本校へ多大な貢献をされた皆様への感謝状の贈呈が行われた。石塚次男実行委員会副委員長(同窓会副会長・高26)が受賞者を歴代同窓会長・特別功労者・功労者・歴代校長の順に紹介、その都度、鈴木実行委員長と矢森校長が連名にてご本人又は代理人及び代表者に感謝状を贈呈し、すべての受章者を代表して、第33代校長の高橋正人様が謝辞を述べた。

次に、生徒を代表して生徒会長の宗田大河さん(2年)が挨拶し、「誇りを持ち、登龍として新たな伝統を築いていく」との決意を述べた。

引き続き、校歌斉唱(黙唱)を行い、最後に、金内貴弘実行委員会副委員長(保護者と教師の会会長・高40)が閉会を宣言、厳肅且つ華やかな雰囲気の中、出席者が100周年という大きな節目を祝うとともに、新たな歴史を築く「無限の可能性への挑戦者」として心の通った「真の良き人材」への成長と育成を誓い記念式典を終了した。(感謝状贈呈者・式典当日の様子は、8〜9ページに記載)

教育長の挨拶が行われた。次にご来賓の皆様を代表して、福島県知事代理の鈴木正晃副知事、福島県議会の渡辺義信議長、白河市の鈴木和夫市長(同窓会顧問・高20)、福島県高等学校長協会の鈴木芳人会長(安積高校長)からご祝辞をいただいた後、金澤隆夫実行委員会副委員長(同窓会副会長・高23)より、壇上のご来賓18名の紹介が行われた。



「登龍」

遠藤昌弘(碩堂) (高30)



五彩湧雲

同窓会長 鈴木雅文(高28)

令和4年10月22日、白河高等学校創立100周年記念式典を挙げてきましたことは、ひとえに学校関係者、保護者と教師の会、さらには多くの同窓生の方々のご尽力の賜であります。この場をお借りして御礼を申し上げます。また、創立100周年記念事業に関しましては、皆さんの卒業生、関係者各位からご寄付をいただきましたこと心から感謝申し上げます。当日の式典は、生徒たちの協力もあり厳粛で白河高校100年の重みが感じられ、まさに今まで白河高校が歩んできた100年の歴史を礎として、さらにこれから新しい歴史を構築することを決意して、第一歩を踏み出した素晴らしい式典でありました。当日はコロナ禍による入場制限の為、限られた関係者のみの参加となつてしまつたことを心からお詫び申し上げます。式典の様子は後日白河高校のホームページにアップする予定となっておりますので是非ご覧ください。

三、春乾坤に回りは花の波立つ関の湖
秋八紘を彩れば、風も文ある小鹿山
嗚呼蛟竜の伏す処、茲に五彩の雲ぞ湧く

白河高校が歩んできた百年は艱苦、悲しみ、そして希望と感動などが凝縮されたまさに近代の日本の歴史そのものです。創立100周年記念事業実行委員長(同窓会長)として白河高校への想いを校歌になぞって語らせていただきたいと思います。

一、西秀麗の那須の峰 神の息吹か大空に
ゆるゆるの萩厳しく 北阿武隈の小峰城
清き歴史の跡とめて 流風薫る小峰城

大正11年3月に白河中学校が設立され、ここから白河高校の歴史が始まります。白河高校第2代校長工藤正勝先生は風光明媚な白河地域に感動し、必ず白河高校が県南の誇りとなることを願ひこの校歌を作詞されました。疾風怒濤、社会の荒波に耐えていつまでも那須山のような荘厳さを阿武隈川のような清らかさを保ち続けて欲しいです。

二、見よ奥南の一聖地 文武に競う多士が意気
扶搖の風を起すべき その剛健の氣を負いて
鬚す進取の旗の手に 指すや理想の星の影
県南の雄として文武両道・質実剛健を目指しな

からも、決して自分の考えだけに固執することなく一歩ずつ目標に向かって歩み続けることが『理想』であり、現在も白河高校に脈々と受け継がれている教育のあり方がここにあると私は考えています。

白河高校の校舎から垣間見れる霞のかかった春の那須連山、初冬の雪景色は大自然と共生しながら理想に燃える白河高校の生徒に勇気を与えてくれます。それぞれの生徒が自然に感じながら理想に燃えて、社会に羽ばたくための準備をするそれが白河高校生の使命なのではないでしょうか。

四、さらば我が友奮わずや 意気に高鳴る青春の
熱き血潮を注ぐべき 時運の流れ早うして
経世の任は重かるを 来れ雄飛の雲呼ばん

そして校歌の四番は高らかに謳います。伝統を愛し、誇りを持ち、自分を見失うことなく、大地に立ち続けた私たち白河高校の生徒は必ず大志を成し遂げることだろうと。

時代はめまぐるしい変化を遂げつつあります。白河高校に課せられた命題は決して小さくはありません。登り龍となり暗雲を断ち切ることができると確信します。



「地域とともにあり、さらに愛される学校へ」

校長 矢森健一

同窓会の皆様の多大なるご支援とご協力
で、白河高等学校創立100周年記念式典を成
功裏に終えることができました。皆様の今
までのご尽力に対して、この場をお借りし
て、御礼を申し上げます。

今年四月に校長として着任して以来、同
窓生の皆様の母校に対する熱い思いや地域
からの大きな期待に圧倒され、県南地区の
中心となる本校を任せられたという責任感
に押し潰されそうになっておりました。し
かし、鈴木雅文同窓会長をはじめ、数多く
の同窓生の皆様、そして地域の方々の励ま
し、温かな声に支えられ、何とか学校経営
をすすめることができいております。本当に
ありがとうございます。

現在、高校では、産業構造の急激な変化
少子化、そして高校生の意識の多様化等を
受けて、高校の特色化・魅力化が進められ
ています。その施策の一つとして「スケー
ル・ミッション」の再定義と「スクール・
ポリシー」の策定が挙げられます。

なぜ今、高校の特色化・魅力化なのでし
ようか。現在、本校への入学は、地域の中
学生にとって大きな目標となっていること
は間違いのない事実です。しかし、魅力
維持、発展しなければ、地域の中学生が地
区外に出て行く可能性があります。近年で
は、少子化の影響で、都市部の高校ですら
定員割れが起きている状況です。十年前に
このことを考えた人がいたでしょうか。現
在、次の時代に向けた高校の在り方そのも
のが問われているのです。

では、「スクール・ミッション」や「スク
ール・ポリシー」とは一体どのようなもの
なのでしょう。これは、各高校の存在意義・社会的役割のこと
で、「スクール・ポリシー」とは各高校の入り口から出口までの教育活動の指針のこと
です。簡単に言えば、「スクール・ミッシ
ョン」は、校訓や校是、建学の精神で、創立
以来掲げられてきた「不易」の部分であり
「スクール・ポリシー」は、社会の変化に
対して絶えず見直し、改善を図っていく「流
行」の部分と言えます。

それでは、これらがどのように高校の特
色化・魅力化につながっていくのでしょうか。私は、学校の「見える化」ではないかと考えます。現在の高校は、まだまだ地域
と十分な共通理解が図られていないと言え
ません。学校の存在意義や目指す教育の方
向性を明確にして地域と共有することがで
きれば、学校と地域との結びつきを強める
きっかけになります。中学校との連携が強
まれば、六年間という長いスパンで地域教
育の改善を図ることができ、地域全体の教
育力を高めることも可能です。また、「見え
る化」が進めば、地域の要望を高校のカリ
キュラムに反映する等、地域の思いと学校
の学びをつなげることも可能です。「見える
化」は、地域における学校の存在意義を高
めることができるのです。

次の百年に向け、より一層地域の方々
に愛される魅力ある学校を目指し、教職員一
丸となり、アップデートした白河高校を創
造していきたいと考えております。今後と
も、会員の皆様からの大所高所からのご指
導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



○講師：齋藤 孝氏
(明治大学文学部教授)

演題：「人間関係をつくる
コミュニケーション力」



創立100周年記念講演会として、明治大学文学部教授の齋藤孝氏による講演会が開催された。司会である保護者と教師の会長長内貴弘氏（高40）による講演者紹介がおこなわれ、齋藤氏による記念講演が開催された。記念講演会の内容について、詳細を記載することができないため、同窓会庶務の金澤博信氏（高29）、生徒の鈴木心菜さん（2年）、吉成崇裕さん（1年）から「記念講演会を聴いて」というタイトルで感想をいただきました。

「経世の任は重かるを」

金澤博信（高29）

白河高校の校歌の四番の最後の一小節です。齋藤孝先生が伝えたかったことは、この「経世の任は重かるを」の事なのではと感じました。もちろん先生は校歌を知るはずもなく、演題は「人間関係を作るコミュニケーション力」でした。先生は静岡高校から東京大学

記念講演会を聴いて

生徒会副会長
2年 鈴木心菜

法学部に入學し、現在は明治大学文学部教授で、テレビ、ラジオ等で超人気の芸能人でもあります。先生は自分をエリートと称し、エリートという言葉は講演の中で何度も出ました。先生のいうエリートとは頭が良いとか、地位があるとか、稼ぎが良いとかではなく、人間にとって大事なのは志であると話されています。先生は大変な読書家で、小学生の時に読まれた本の中の「日本を一人で背負って立つ気概を持つ」という言葉に感銘を受け、「日本の将来を背負って立つ」という志を持ったそうです。東京大学法学部に行ったのも、そういう思いからだそうです。また孔子の名言である「知者は惑わず、仁者は憂えず、勇者は懼れず」が大事であると話されています。知は判断力、仁は優しさ、勇は行動力です。知を研くには、高校の学習は全て大事です。仁を研くには、胸で聞くことが大切で、それができる人がエリートであり、聞くときは覚悟を持って聞くことが大事であると話されています。これら3つを兼ね備えた人物の例としてウクライナのゼレンスキー大統領をあげていました。また、先生は「知」「仁」「勇」に加え「爆笑」が大事だとも話されています。笑いを取るのには戦いであり、雑談力が必要であるとも話されていました。

話は戻りますが、校歌にある「経世の任は重かるを」の意味は、「世の中を納める責任は重いが、志を高く持つて歩んでほしい」ということであり、講演に対する在校生の会場での話の聞き方、反応は素晴らしく、まさにエリートだったのではないのでしょうか。飛んで跳ねて大盛り上がりでの講演会でした。

「相手の趣味や好きなものを第一に否定しない。とりあえず全て肯定する。」
齋藤孝先生の講演を聴いて、私が最も印象に残っている言葉です。初対面の人、仲の良い人、まだ互いに距離がある人、どんな人に対しても、想像力を働かせ、自分の頭でよく考え、自分の胸で相手の話を聞くことが人間関係を作るコミュニケーション力を高める上で大切であるということを感じていただきました。

私は幼い頃から人と話すことが好きで、嬉しかったこと、悲しかったこと、感動したこと、腑に落ちたことを全て口にしてしまう癖があります。その性格から「社交的だね。コミュニケーション力が高い」とよく友達から褒めてもらいます。しかし、私の中ではこのコミュニケーション力は欠点であると感じていました。たしかに様々な話題を持つていくことは、相手との関係を築くために必要なマテリアル。でもそれを一方的に発している私は本当にコミュニケーション力が高いといえるだろうか、と。そんな疑問を抱いていた時に、齋藤先生の講演を聴き、自分のコミュニケーションに対する姿勢を変えてみようと思えました。齋藤先生のおっしゃるコミュニケーション能力とは、単に「うまく話す力」よりも、「聴く力」であって相手の話す内容の意図を的確に汲み取る能力であることだと、講演を聴いて学びました。その「聴く力」を高めるためには、今までの私のような相手よりも自分の話すことに力を注ぐ姿勢ではなく、相手の話すことに対して想像力を働かせる

ための教養を身につけ、相手に体を向けて胸で聴く姿勢であるそうです。そして、相手の話すことを否定せず、全て肯定することが人間関係を作るコミュニケーション力向上させる秘訣であり、それができる人こそが、エリートであると齋藤先生はおっしゃっていました。

判断力の「知」、優しさの「仁」、行動力の「勇」。これら3つのうち、1つも欠けることなく三脚のように成り立つ力を持ち、相手を理解することができる程の高い教養を兼ね備えることが、エリートには必要です。自分が社会に出た時に、高度なコミュニケーション力が身につけているために、齋藤先生のおっしゃる「エリート」になるために、まずは今自分がするべき高校の授業、身につけるべき学力を向上させてエリートに必要な教養を高めたいと強く感じました。白高生としての誇りをもった、卓抜したエリートになりたいです。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございます。

記念講演会を聴いて

生徒会副会長
1年 吉成崇裕

先日、白河市のコミネスで白河高校創立百周年記念式典が行われ、その中で、「人間関係を作るコミュニケーション力」を演題に講演会が行われました。講師としてお迎えしたのは明治大学文学部教授で、現在テレビやラジオで大活躍されている齋藤孝先生です。先生は自分自身をエリートと称し、県南随一のエリートである私達に貴重なお話をしてくださりました。講演の始めに先生がおっしゃった「講演のあと、何人かの生徒さんにステージに出てきてもらって、話した内容を要約してもらおうからね」という言葉は少し弛んでいた私達

の心を引き締めたことでしよう。しかし実際に聞かれることは無く、全校生は少し安堵している様子でした。講演の中で何度も出ていた「エリート」という言葉は頭がいいとか地位が高いとか収入がいいとかではなく、志を持っている人だと先生は仰っています。これら以外にも先生は私達に、多数の価値あるお話をしてくださりました。その中でも私の心に残っているのは、「知・仁・勇」と「ミッション、パッション、ハイテンション」の二つです。

まず「知・仁・勇」についてです。これら三つはそれぞれ判断力・優しさ・行動力を表しています。また「知者は惑わず、仁者は憂えず、勇者は懼れず」という言葉を私達に教えていただきました。この言葉は今でも私の心の中に深く刻まれています。このお話しはいつもの自分を振り返る、良い機会になりました。次に「ミッション、パッション、ハイテンション」についてです。出会ったものを使命へと昇華させるミッション感覚、ネガティブ感覚をパワーに変えるパッション力、場を活性化させるハイテンションの感覚が大事だと話されています。このような考え方は私達の普段の生活だけではなく、将来就いた仕事でも役に立つと私は確信しています。

先生はこれらの少し堅苦しく聞こえてしまう内容を、軽いジョークを交えてお話しくださいました。まさにこれが今回の講演会のタイトルである「人間関係を作るコミュニケーション力」なのではないかと強く思います。今回の講演は、生徒達が、今の自分には何が足りず、これから何をしておくべきなのか、そしてコミュニケーションに対する考え方を再確認する良いきっかけになったのではないのでしょうか。笑いあり、感動ありの大盛り上がりでの講演会でした。

埋もれた記録に光

創立100周年記念誌編集委員長 大岡清一

二〇二二年(令和四)一〇月二日、白河文化交流館コメネスにおいて、福島県立白河高等学校創立百周年記念式典が挙行されました。式典には創立百周年記念誌「登龍」「星六つ」、DVD「登龍」白河高校百年の歩み』の三部作を、式典の参列者として在校生に届けことができました。

思い起こせば、令和二年六月一日、全国に新型コロナウイルスの感染が拡がるなか、編集委員・事務局全員がマスク姿で参集し記念誌編集準備委員会が開かれました。その後、編集委員長から準備委員会に次の三点を提案し編集の議論を深めていただきました。

- 一 先輩・同級生・後輩、そして地域の関係者の声を聞き、埋もれていた資料を発掘し原稿に反映させる。
- 二 表現はやさしく内容は深く濃い原稿とする。
- 三 白河高校の歩みを理解するための基本となる「百周年記念誌」をめざす。

会報には右の「先輩・同級生・後輩、そして地域の関係者の声を聞き、埋もれていた資料を発掘し原稿に反映させる」の具体的な成果を、次に述べてみたいと思います。「先輩・同級生・後輩、そして地域の関係者の声を聞き」くでは、戦時中に学校生活を送った渡辺医院院長の渡辺薫(中19回)氏、そして元本校教員であった渡邊満男(高2回)氏に話を伺いました。

昭和一九年七月一日、戦局がきびしくなるなか、渡辺薫氏が中学五年生90名が横須賀海軍工廠に学徒動員されました。そこで、幻の空母「信濃」七万二千トン、全長二六六メートルの建艦に従事し、上官の命令のもと甲板の上を自転車に乗って部品を搬送にあたったことや、完成した「信濃」の試運転に特別に乗船する許可があり東京湾に出たことなど、自らの体験にもとづく貴重な証言を聞くことができました。

また、渡辺先生の御尊父義治氏は中2回卒の首席卒業者である浅見初太郎の病気を、16年余の長きにわたって無償で診療されました。浅見が死の間際にこれまでの診察の御札にと手渡した銀製の「懐中時計ウォールサム」を、ご子息の薫氏が大切に保管されておりました。何度かの原稿打合せの折りに、渡辺氏からこの銀時計を記念誌編集部会長の石塚次男(高26回)氏を通して母校へ寄贈したいとの申し出がありました。現在、この時計は白高玄関の芸術品展示コーナーに展示してあります。来校の際はぜひご覧いただきたいと思えます。今年一月ご自宅に伺った時、先生は「記念誌はいつできあがるんですか?」「一〇月の記念式典には完成します」と申しあげると、「あと一〇カ月か、長いな。私も記念式典には、ぜひとも出席したいな。」と話をされました。そして、ご自身で書齋奥のステレオの前に足を運び、電源を入れてCDをセ

ットされると大音量で流れてきたのは、「西秀麗の那須の峰...」の校歌でした。先生は校歌に合わせてリズムカルに身体を動かし、にこやかな表情で踊っておられました。

そして、令和四年の三月末をもって閉院する予定を、白高の百周年記念式典までは診療を続けたいと頑張っておられました。しかし、八月一日、あれほど楽しみにされていた百周年記念式典を前に、渡辺薫先生は現役のまま九五歳の生涯を閉じられました。

一〇月二二日の記念式典当日、「百周年記念誌「登龍」」を石塚編集部会長とともに先生の御霊前に献呈しご冥福をお祈りしてまいりました。

渡邊満男先生には戦争末期の白河中学校の様子や、昭和二〇年に学校が軍事工場となって、幻の飛行機「剣」の製造にかかわった話を伺うことができました。入学した昭和一九年の「福島県立白河中学校要覧」に目を通された先生は、担任の寺島道雄先生の名前を見出した途端、当時のことを思い出されたのか、名物山羊先生として親しまれた岩越二郎先生、初代同窓会長の五十嵐稻之助(中1回)先生、学校薬剤師であり後に三代目同窓会長となった岩淵敏夫(中1回)先生など、個性ある先生方の話をしてくださいました。

飛行機「剣」は白中の講堂では胴体と骨格の組立て、リベット打ち込みなどを行い、三機が完成し一機は飛行試験を行ったが車輪が破損したとのことでした。戦争末期の爆撃を避ける分散工場であったため、非効率な製作だったと語

っておられました。渡邊満男先生は「記念式典には出席したい。私も式典に招待されるのかな。」と招待状の届くことを心待ちにされておりましたが、九月一日、九〇歳で帰らぬ人となりました。

「埋もれていた資料を発掘」するについては、松田吉典(中2回)先生が甲子山遭難の資料をまとめられて、図書館の書庫に眠っていることがわかりました。

昭和三〇年九月六日、佐々木愿三校長は事故の責任をとって退職され、校長代理教務主任となった松田先生は、「昭和三〇年九月山岳部遭難関係記録」として整理されました。松田先生は「後記」に、「本日をもって遭難関係最後の事業である遭難碑建立除幕式が完了しました機会に亡き六後輩の冥福を祈りながら心を浄め身を洗い謹んで関係記録をまとめる 昭和三〇年九月二十四日 松田吉典」と記し



ました。六後輩の死を先輩である松田先生は「心を浄め身を洗い」と認め、事故後の対応に強い決意と覚悟をもってあつたその思いが文面から伝わってまいります。甲子山遭難に関しては、当事者の吉田公弥(高8回)氏にも話を伺うことができました。山岳部生徒15名、顧問の鈴木忠雄先生の16名は阿武隈川を遡行し、源流から藪漕ぎをして縦走路をめざしますが、容易に見つからず、廣瀬武夫リーダーは縦走路発見後に力尽きて最初の犠牲者となります。その時、「脈を取り徐々に脈がなくなり、リーダーが亡くなったのを確かめました。そしてしゃくなげの花を手折って胸におき、両手を組ませました。」との話は、これまでの検証や証言の記録にもなく、吉田氏が長く胸の内に秘めていた出来事を吐露された言葉だったのでしよう。

事故から六七年、松田先生の残された記録そして吉田氏へのインタビューをもとに、久保木政行(高15回)氏、三森一男(高21回)氏とともに整理編集し別冊「星六つ」として刊行しました。

最後に「埋もれていた資料を発掘」については、もう一つ大事な発見がありました。昭和二年三月八日、第一回白河中学校卒業式が行われました。この時の卒業者数は「関河」第二号や過去の周年誌の記録には66名と記載されています。資料収集とその検討の過程で「卒業証書台帳」を繙き、卒業生を一人ひとり数えてみるとなんと67名であることがわかりました。百周年記念誌では正しい卒業者数を記すことができました。

「創立100周年を祝う会」開催

9月1日(木)、「創立百周年を祝う会」が本校校庭及び体育館において、生徒会主催より開催された。この会は、「記念式典」とは別に、生徒が自分たちで百周年をお祝いし、この記念すべき年に在籍したことがそれぞれの思い出に残るようなイベントを開催したいという声を受け、一学期から生徒会役員を中心に企画を練り、学校側と日程・内容等の協議を重ねて実現させたものである。

当日は朝9時から、校庭での開会式に続き、クラス対抗リレー、クラス対抗長縄跳びが行われ、リレーは2年3組、長縄跳びは1年5組が優勝し、総合優勝は2年2組であった。体育館では書道部による書道パフォーマンスや、前日から生徒有志、教員有志によるバンド演奏やダンス発表が上演、録画された。新型コロナウイルス感染症対策のため、生徒有志による発表はYouTubeでのオンライン配信となるなど制限がある中での開催ではあったが、生徒たちはそれぞれの場面で大いに盛り上がりつつあった。最後には生徒会役員が作成した記念動画や同窓生教職員による「応援歌」「花や一時」が披露され、大成功の内に閉会となった。一人一人が与えられた条件の中で存分に楽しみ、生徒全員にとって思い出に残る一日となった。



各部会からの報告

記念事業部

部会長

金沢 隆夫(高23)

創立100周年記念事業のメインとして登龍会館の改修を行います。事業費については、今回、同窓の皆様や地域の方々からいただいた寄附金の他に登龍会館設備充実積立金を充てます。当初予定していたマイクロバスのリースについては実施しないことになりました。

①登龍会館の改修

登龍会館は、創立50周年記念事業として建設され、部活動の合宿所や自主学習の場として活用されてきましたが、男子校の施設ということで、男女共学後の生徒の要望に対応しきれていない状況となっており、ことから、今回水回りを中心に大規模改修を図るものです。

◆1階と2階に浴室を新設(現在はシャワーのみ)

◆すべてのトイレを洋式トイレに改修

◆2階にスライド式の間仕切りを設置(男女別の宿泊に対応)

◆すべての窓をペアガラスに交換

◆すべての照明をLEDに交換

②企画展「白高100年の歩み」(仮称)の開催

創立からの白河高校の歩みを紹介する展示会をマイタウン白河で開催する予定です。

平澤親子展について

本校教諭

高田 良一(高32)

※平澤敏雄・篤親子の経歴、作品、受賞歴等は白河高校創立100周年記念誌(以下、記念誌)に詳細に掲載されているためここでは割愛する。

平澤敏雄回顧展は令和4年8月20日から28日までマイタウン白河で開催された。また、ご子息の平澤篤洋画展は同年、8月19日から28日まで藤田記念博物館で開催された。どちらも約千人を超える方が来場され大盛況のうちに幕を閉じた。

平澤敏雄展では白河市に所蔵されていたが、これまで広く公開されることがなかった『けずられた台地』シリーズが中心となった。記念誌執筆の内山秀夫先生は『そこに描かれているものは、人の手によって傷つけられた台地とそこに生きていたモノたちの亡骸。しかし、その奥には天変地異を超えて永劫なる



平澤 敏雄 「けずられる台地から81-V」(1981年・昭和56) 白河市蔵

時を存在し続けてきた大自然の崇高なる力も感じとることができると評した。私も平澤敏雄回顧展に実際に足を運び、台地の悠々として力強い、そしてそこにはけずられていく台地の働哭、人間社会への警告などを実感せざるを得なかった。

平澤篤展には2回足を運んだ。奥様の昌子様のごコンサート(奥様は内閣府のアドバイザーとしておおよそ100カ国の国家を原語で歌うアーティストでもある)が

並行して開催された日は会場は超満員に膨れ上がった。平澤篤君は私の高校時



平澤 篤 「Illa Veneziana」(2018年・平成30) 平澤昌子様蔵

代3年間一緒のクラスで親友であり、語り合った仲である。卒業制作の『夜と霧』はナチスの暴力におびえるユダヤ人の恐怖が暗い色調の仲に極めて描かれている。同時に、ユダヤ人の目が闇から浮きでてきて見る者を戦慄させる。そんな絵画であった。平澤篤君は、篤君のご両親、奥様、お嬢様をモデルにした作品も数多い。自宅のお風呂にバスクリンを入れて、それを奥様とお嬢様に何回もかけてひとつの作品を完成させたとお嬢様に聞いた。また、白日展で最高賞をとった作品は、わざわざイタリアの古い教会を下見して、書き上げた作品であると本人から聞いたことがあった。平澤篤展はまさに写実の極みであった。

平澤敏雄回顧展では生きることの葛藤や叫び、さらには常に『生と死』が対峙していることを感じた。平澤篤展では絵画の中に風のそよぎさえ感じることもできた。細部にわたって対象を

見つめることで内面さえもさらけ出そうとした。お二人のご冥福を祈ります。

式典部会

式典部会長・保護者と教師の会会長

金内 貴弘(高40)

2022年10月22日(土)、創立100周年記念式典・記念講演会を白河文化交流館コミネスにて、さらに記念祝賀会を東京第一ホテルにて無事に行うことができました。

まず記念式典は、全校生徒・先生方・ご来賓・ご招待の皆様が大ホールを埋める中、白高の歴史を振り返る映像を鑑賞した後、生徒が持つ校旗の入場と共に開式しました。司会進行も生徒が務め、校長式辞、主催者挨拶、来賓祝辞、歴代校長・歴代同窓会長・功労者への感謝状贈呈、生徒代表挨拶と進み、最後は校歌斉唱(コロナ対策のため残念ながら黙唱)で締めくくりました。

続いて、明治大学教授の齋藤孝先生をお迎えして記念講演会を行いました。テレビなどでお馴染みの先生ですが、楽屋でもとても気さくにお話をしていただけの方で、講演会では講師というよりエンターテイナーという表現がピッタリな、素晴らしい語り口と内容で会場を盛り上げて下さいました。何より生徒の皆さんから「面白かった」「楽

しかった」といった声を聞くことができ、周年にふさわしい良い講師の方に来ていただけたと思います。

夕方からは、場所を東京第一ホテルに移して、会費制の記念祝賀会を行いました。約90名の方に参加いただき、鏡開き・乾杯の後は皆様それぞれ懇親を深め、盛会のうちにお開きとなりました。

今回の式典担当部会は、保護者と教師の会を中心としたメンバーで構成され、2年前の須釜俊男会長の時に講演会の講師の検討から始まり、昨年の高内慎介会長へと作業が引き継がれ、今年度を迎えました。コロナ禍でなかなか集まることができないうち、各担当の保護者と教師の会役員、先生方、生徒の皆さんがそれぞれリハール等を通して動きやシナリオをブラッシュアップしていただいたおかげで、本番をスムーズに進めることができました。特に、学校側窓口として奔走してくださった小田賢二教頭先生には、この場をお借りして心から感謝を申し上げます。色々とご指導いただいた鈴木雅文実行委員長をはじめ、ご協力いただいた全ての皆様、本当にありがとうございました。今回の式典が良い節目となり、次の100年も白河高校がさらに素

晴らしい学校になっていくことを願っております。

募金部会

部会長 中村 彰(高20)

同窓生の皆様、創立100周年記念事業の募金活動にご協力いただき誠にありがとうございます。おかげ様で、寄付金の合計は、11月初めの段階で50,350,000円となっております。現在までに皆様からお寄せいただきましたご厚志は、10月22日、厳粛・盛大に執り行われました記念式典、学校百年の歩みをまとめた記念誌やDVD制作の費用に充てさせていただきました。今後は、メインの記念事業である登龍会館の改修工事を行います。改修工事用の控除寄付金、一般寄付金の残額を合計しても、予定していた改修予算には十分ではありません。募金期間は、令和5年3月末までございますので、振り込みのお済みでない皆様の御協力を賜りたくお願い申し上げます。

同窓会名簿部会

部会長 横村 勝己(高37)

令和2年1月に、昭和2年3

月卒(中一)から平成31年3月卒(高71)までの卒業生約24,500名を掲載した「同窓会会員名簿」(令和元年度版)を発行いたしました。

転居等をされた場合、又は、住所未確認の方のご住所等をご存じでしたら情報をお寄せ下さい。お寄せいただいた情報によりご本人へ確認し、同窓会報の郵送先等の連絡先として登録させていただきます。ご協力の程、何卒、お願い申し上げます。

なお、出版社での委託販売業務は既に終了しております。名簿購入をご希望されます方は、同窓会事務局までお問い合わせ下さい。

連絡先 〒961-0851 福島県立白河市南登り町54 同窓会事務局 TEL 0248-24-1116 FAX 0248-24-2778

記念誌編纂部会

部会長 石塚 次男(高26)

本校では10年ごとに周年記念誌を刊行して参りましたが、今回はこれまでの沿革史を総括し、

より充実した未来に残す記念誌とするため、創立100周年記念事業実行委員会の設立に先立ち、令和2年5月22日、「記念誌編纂準備委員会」が立ち上げられました。(9月からは「記念誌編纂部会編集委員会」。大岡清一委員長を始めとして委員の皆様には、お忙しい中、二年半の長きにわたって調査・執筆、編集作業にご尽力いただきましたこと心から感謝申し上げます。今回の記念誌は委員長の方針により、各委員が歩いて聞き取りを行い、新たな発見を探して参りました。その成果から昭和30年の山岳部甲子山遭難に関する資料を別冊『星六つ』としてまとめることができ、貴重な写真や応援歌等の楽曲の音源を含めて沿革史を綴った記念DVD『登龍』白河高校百年の歩み』も発行することができました。コロナ禍により委員が一堂に会して編集会議を開くことが困難な中、可能な方法を模索しながら編集を重ね、次の100年に残すにふさわしい、立派な記念誌が完成したものと自負しております。ぜひ、じっくりとお読みください。なお、今回の編集事業にあたりご寄贈いただいた写真、文献等の貴重な資料は、次の百周年に向けて、今後も継続して整理、保管の作業を進めていきたいと思っております。


「記念誌」及び「記念DVD」につきましては、県内外の図書館、高校、大学関係機関への寄贈、郵送作業が終了し、残部がございます。購入をご希望の皆様には販売いたします。

価格及び販売方法は次のとおりです。

『創立百周年記念誌』
『記念DVD』の販売について

【本誌「登龍」別冊「星六つ」】
・創立百周年記念誌「登龍」セット 一〇,〇〇〇円
本誌「登龍」 八,〇〇〇円
別冊「星六つ」一、〇〇〇円
・(記念DVD) 白河高校百年の歩み 一,〇〇〇円

【販売方法】
・昭和堂書店(白河市愛宕町四四)にて店頭販売
電話〇二四八一三一二七四





校旗入場(中学)



校旗入場(高校)



実行委員長挨拶



学校長挨拶



県教育長挨拶



記念式典開式



白河市長挨拶



感謝状贈呈



副知事挨拶



福島県立白河高等学校
(ロゴマーク制作 本校3年 大越蒼汰)

創立 100 周年 記念式典

感謝状贈呈者 (敬称略)

歴代同窓会長

- 第11代 金内貴久(高13)
- 第12代 安田好伸(高18)

特別功労者

今井珠泉(中22)

本校に日本画の作品を寄贈
嶋倉 晃(高1) 平成元年より長
年に渡り本校に500冊以上の図書
を寄贈

遠藤昌弘(高30) 百周年記念誌に
題字の揮毫をしていただくこと
もに本校に3点の書を寄贈
※なお、寄贈作品の中から、「登
龍」の写真を本誌の1面に掲載
した。

功労者 百周年にあたり多大なる 寄付をいただいた皆様

- ・ 大高貞男・大槻良太郎・金澤博信・小林征夫・宗田浩一・角田新一・鈴木雅文(株)アクティブワン(有)有賀会計センター(税)大手門会計・ケンサーチ(株)
- ・ (株)昇栄(株)昭和堂・白河商事(株)・白河信用金庫(医)
- 創生会真岡西部クリニック(有)
- そうだ・東京コンピュータサービス(株)・(株)東邦銀行(一財)
- 白信育英会・福島県南土建工業(株)・(公財)藤田教育 振興会
- ・ 藤田建設工業(株)・(株)松本工務店・山田設備工業(株)・(株)ルコタージュ

歴代校長

- 第33代 高橋正人
- 第34代 太田 孝
- 第35代 田中 誠
- 第36代 白石文夫



創立100周年記念 祝賀会



令和4年度同窓会総会開催

去る五月二十一日(土)、令和四年度白河高等学校同窓会総会が東京第一ホテル新白河にて開催され、約60名の参加がありました。横村勝巳事務局長(高37)の司会進行のもと、中村彰副会長(高20)が開会を宣言し、校歌斉唱(黙唱)を行った後、この一年間のうちに逝去された会員の方々のご冥福を祈って、黙祷を行いました。

続いて鈴木雅文会長(高28)からの挨拶があり、次に矢森健一校長から白高の近況報告とこの春に赴任した小田賢二教頭をはじめとする学校体制の紹介を含めた挨拶がありました。その後、各支部を代表して出席された、東京登龍会会長の遠藤泰司氏(高9)、棚倉支部長の藤田昌美氏(高18)、埼玉支部長の石井久雄氏(高22)、西郷支部長の金澤隆夫氏(高23)、表郷支部長の芳賀憲市氏(高19)からそれぞれ挨拶がありました。続いて来賓を代表して後援会会長の櫻井和朋氏(高12)と保護者と教師の会会長の金内貴弘氏(高40)、福島県議会議員の三村博隆氏(高41)からのご祝辞をいただきました。

きました。続いて議事に入りましたが、慣例により還暦を迎えた高32回卒業生の中から斎藤正明氏が議長に選出されました。まず諸橋和典庶務(高34)から令和三年度事業報告並びに令和三年度決算報告が、加えて鈴木茂久会計監査(高29)から監査報告があり、それぞれ承認されました。続いて諸橋庶務から令和四年度事業計画(案)並びに創立100周年記念事業実行委員会に100万円を寄付するための予算を含めた令和四年度予算(案)が提案され、満場一致で承認されました。最後に石塚次男副会長(高26)が開会を宣言し、総会を終了しました。



来年度総会のお知らせ

期日 令和5年 5月20日(土)

講演会 16時～17時

総会 17時～18時

場所 東京第一ホテル新白河

令和3年度 白河高等学校同窓会会計決算書

収入の部 (単位 円)			
項目	3年度予算額	決算額	備考
繰越金	2,001,923	2,001,923	
入会金	841,200	836,400	697名
賛助金	2,000,000	2,580,363	
同窓会基金	1,500,000	1,500,000	
雑収入	877	12	利息他
合計	6,344,000	6,918,698	

支出の部 (単位 円)			
款	3年度予算額	決算額	備考
総務費	670,000	137,818	
事務費	20,000	13,508	事務用品他
通信費	150,000	12,760	郵便料金等
会議費	120,000	0	常任理事会他
総会費	100,000	60,000	総会諸経費
旅費	60,000	0	
慶弔費	20,000	0	
交際費	200,000	51,550	広告掲載費
教育助成費	440,000	471,004	
学校図書充実費	150,000	150,000	
体育文化助成費	80,000	114,400	祝看板代
卒業記念品助成費	60,000	56,604	印鑑代補助
進路対策費	150,000	150,000	
事業活動費	2,602,000	2,493,632	
支部育成費	100,000	18,000	支部総会諸経費
会報発行費	2,300,000	2,318,612	会報印刷代、送料他
事業費	1,000	0	
研修費	1,000	0	
登龍賞基金	200,000	157,020	登龍賞楯、刻印他
基金	0	0	
同窓会基金	0	0	
創立百周年関係	2,000,000	1,000,000	
創立百周年関係	2,000,000	1,000,000	
予備費	632,000	0	
予備費	632,000	0	
合計	6,344,000	4,102,454	
次期繰越金	0	2,816,244	

令和4年度 白河高等学校同窓会予算書

収入の部 (単位 円)			
項目	4年度予算	前年度予算比	備考
繰越金	2,816,244	814,321	
入会金	843,600	2,400	
賛助金	2,000,000	0	
同窓会基金	0	△1,500,000	基金より
創立百周年関係	3,000,000	3,000,000	
雑収入	156	721	利息
合計	8,660,000	2,316,000	

支出の部 (単位 円)			
款	4年度予算	前年度予算比	備考
総務費	760,000	90,000	
事務費	20,000	0	事務用品他
通信費	150,000	0	郵便料金等
会議費	120,000	0	常任理事会他
総会費	150,000	50,000	総会諸経費
旅費	100,000	40,000	東京登龍会参加費
慶弔費	20,000	0	香典・弔電
交際費	200,000	0	広告掲載費
教育助成費	500,000	60,000	
学校図書充実費	150,000	0	
体育文化助成費	120,000	40,000	祝看板代
卒業記念品助成費	80,000	20,000	印鑑代補助
進路対策費	150,000	0	
事業活動費	2,702,000	100,000	
支部育成費	100,000	0	支部総会諸経費
会報発行費	2,400,000	100,000	会報印刷代、送料他
事業費	1,000	0	
研修費	1,000	0	
登龍賞基金	200,000	0	登龍賞楯・刻印他
基金	3,000,000	3,000,000	
同窓会基金	3,000,000	3,000,000	
創立百周年関係	1,000,000	△1,000,000	
創立百周年関係	1,000,000	△1,000,000	
予備費	698,000	66,000	
予備費	698,000	66,000	
合計	8,660,000	2,316,000	

同窓会基金定期預金の総額は2,439,155円となります。

令和4年講演会の開催について

○講師：西牧 拓人氏(高32)

演題：「白河の木と植物」

同窓会総会に先立ち、恒例となっている還暦を迎えた当番学年(今回は高32回)による講演会が催されました。はじめに西牧氏の紹介がありました。紹介内容は次の通りです。

講師の西牧氏は、白河高校卒業後、京都芸術短期大学造形芸術学科に進学されましたが中退し、西牧植園に入社されました。平成3年度の1年間、株式会社山崎建設でご勤務なされ、平成4年4月から有限会社西牧植園に入社し、常務取締役就任、平成15年3月からは代表取締役就任され、現在までご活躍なさっています。



続いて西牧氏による講演が始



まりました。氏は、木の生命力の強さやその役割を分かりやすく面白くお話しくださいました。豊富な知識から私たちに身近な木の種類や、再生の技術などを紹介くださり、会場からはなるほどという感嘆の声が上がりました。さらに白河の歴史と結びつけたサクラのお話は、情景が想像しやすく、過去と現在を結ぶ貴重な内容となりました。創立100周年を迎えた白河高校に、より一層彩りを添えていただきたい素晴らしい講演でした。

講演後、会場から大きな拍手が巻き起こり、参加者からは大変勉強になったという感想がいたるところから聞こえてきました。そして鈴木会長から西牧氏に講師謝礼が手渡されました。会場が改めて盛大な拍手に包まれました。大成功のうちに講演会は終了しました。

母校だより

人事異動

令和四年度の人事異動についてご報告申し上げます。

三月末に白石文夫校長先生が定年退職されたのをはじめ、安部誠教頭先生が安積高等学校教頭にご栄転、ほかにも十名の教職員の皆様のご退職・ご栄転となりました。そして、四月一日には、郡山萌世高校から矢森健一校長先生、本宮高校から小田賢二教頭先生をお迎えしたほか、十名の教職員の皆様を本校にお迎えすることができました。

同窓生の異動は、高田良一先生(高32・地理歴史・公民)がご退職されました。*高田先生はあらためて再任用教諭として本校勤務となります。池田泰浩先生(高51・理科)が福島県教育センター指導主事に、蛭田一隆先生(高52・理科)が会津学鳳高等学校に、渡邊康介先生(高66・保健体育)が石川支援学校にご栄転されました。また、新たにご転入された先生は、須賀川桐陽高校から鈴木清一先生(高36・理科)、白河市中央公民館から鈴木敏博先生(高24・英語)、須賀川高校から鈴木諒先生(高67・地理歴史・公民)のお三方です。

今年度も本校は教育熱心で優れた指導力を持つ先生方をお迎えすることができました。生徒が将来、地域のリーダーとして、さらには国際社会の中で活躍できる人材に足りようよう、授業はもちろん、部活動や学校生活の様々な場面において、あたかくそとしてきめ細やかな指導頂いているところでございます。



教頭 小田賢二



常勤講師 鈴木敏博 (高24)



教諭 鈴木清一 (高36)

この4月より母校に教諭として赴任いたしました。高校時代から変わらない校舎に懐かしさを感じ、特に着任式で校歌を聞いたときに母校に戻ってきたと実感しました。

私が在学時は、男子校1クラス45人で8クラス、勿論、恒例の校歌練習会がありました。創立60周年の節目に在学しておりましたが教員としてまた、100周年の大きな行事に関われることに大きな喜びを感じます。在学中に経験したマラソン大会や球技大会、登龍祭など数々の行事が共学になっても引き継がれていることにうれしく思いました。

白河高校100周年を機に後輩たちの育成に少しでも貢献できるように努力します。同窓生の皆様どうぞよろしくお願いいたします。

約二十数年前、地理歴史科の教員として、県南に配されました。この縁もあってか、『福島県の歴史散歩』(山川出版社、2007年)では、白河市を含む旧西白河郡と東白川郡を担当し、取材のため域内をつぶさに回り、当時と変わらぬものがある一方、大きく変貌したものもあり、その落差に驚いています。

さて、白河高校は創立百周年を迎えました。その歴史を紐解いてみると、創立より不変のものも大きく変化したものがあります。白河高校が新たな世帯を歩むためにも、今後不易流行を追い求める必要があるでしょう。微力ながら、その一助となるよう努力したいと思えます。



常勤講師 鈴木諒 (高67)

このたびご縁がありまして、4月より創立100周年を迎える母校で勤務しております。創立100周年を迎えるにあたり、白河高校に対する地域・保護者からの期待を再確認し、白河高校の歴史と伝統を改めて実感しております。その期待に応えることができるよう、私自身努力したいと思っております。

変化が激しい世の中ですが、生徒には高校3年間で「自分らしさ」を認識し、たくましく成長した「登龍」となって社会で活躍してほしいと思えます。微力ですが、生徒の成長に寄与できるよう精進して参りたいと思えます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

この度縁あって母校白河高等学校に三度勤務することになりました。四月から勤務の予定であったのですが、体調が思わしくなく、六月一日からとなりました。その間、白河高校の先生方には何かとご迷惑をお掛け致しました。心温かくご待って戴き、深く感謝申し上げます。こうして教壇に立ち、後輩でもある生徒たちに接することができました。これまで培った経験を基にこれからの未来を築く若い諸君に対して、教科指導始めるのがしかなることを伝えることができのならば望外の喜びです。

また、創立百周年という記念すべき年を職員として母校で迎えることができるのは本当に嬉しい限りです。今後も変わることなく県南地域の発展を担い、さらに日本及び世界に向けて活躍する優れた人材を育成する本校の役割をしっかりと心に留め置きながら、日々の業務にあたりたいと思えます。なにとぞ宜しくお願致します。

進路報告

東北大2名、福島県立医大医学部1名、筑波大3名、電気通信大1名、東京農工大1名、東京都立大1名、新潟大15名、埼玉大5名など、現役国公立大学合格者94名！

進路指導主事 金田 孝志

令和3年度卒業生236名の進路状況をご紹介いたします。まず、国公立大学は東北大、福島県立医大医学部、筑波大、埼玉大などの難関大学の合格者を含め、計94名が合格しました。1学年が6クラスに減ったから卒業生が出たのは昨年度で3回目でしたが、国公立大学合格者94名は、過去3年で最多です。福島大22名、新潟大15名、宇都宮大5名など地元、中堅大学でも堅実な結果を残しました。明治大、青山学院大、立教大、中央大、法政大等の私立大学合格者は延べ352名でした。卒業生の87.3%が現役で四年制大学への進学を実現しました。

昨年度も、新型コロナウイルスが依然として猛威を振るい、生徒たちは様々な不安との戦いを余儀なくされました。また、大学入学共通テストは、数学の平均点が大きく下がるなどした影響で、従来とは異なる結果となりました。ショックを受けた生徒も少なからずおり、教員も、国公立大学の出願を検討する際に過去のデータとの擦り合わせに苦労しました。しかし、生徒は、教員を信頼し自分自身の力を信じ、最後まで粘り強く努力して見事な実績を残しました。保護者の皆様のおたのしみも大きいです。保護者の方々も、後輩の皆さんも、百年の伝統を誇る白河高校の生徒であるという誇りを胸に、先輩たちを目標にして、いや、さらに上回る成果を目指して勉学に励んでください。

令和3年度卒業生 大学等合格状況一覧

《国公立大学・準大学》

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, R2, R1. Lists various national and public universities like 北海道大, 筑波大, 東北大, etc.

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, R2, R1. Lists various private universities like 尚絅学院大, 東北芸術工大, 医療創生大, etc.

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, R2, R1. Lists various private universities like 国士館大, 駒澤大, 実践女子大, etc.

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, R2, R1. Lists various private universities like 桐蔭横浜大, 東京工芸大, フェリス女大, etc.

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, R2, R1. Summary table for university admissions.

《就職(含公務員)》

Table with columns: 企業名, 男, 女, 計, R2, R1. Lists job placement statistics for various companies.

《予備校等》

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, R2, R1. Lists statistics for various preparatory schools.

《留学》

Table with columns: 国名, 男, 女, 計, R2, R1. Lists statistics for students studying abroad.

令和3年度卒業生 合格先状況一覧

Table with columns: 国公立大学(含準大学), 私立大学, 四年制大学合計, etc. Summary of admission statistics.

令和3年度卒業生 進路先状況一覧

Table with columns: 国立大学, 公立大学, 私立大学, 四年制大学合計, etc. Summary of career path statistics.

《私立大学》

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, R2, R1. Lists private universities like 札幌大谷大, 酪農学園大, etc.

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, R2, R1. Lists private universities like 尚美学園大, 武蔵野学院大, etc.

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, R2, R1. Lists private universities like 武蔵野大, 武蔵野野音大, etc.

Table with columns: 学校名, 男, 女, 計, R2, R1. Lists private universities like デジタルアーツ仙台, 仙台ビューティースクール, etc.

進学報告

福島県立医科大学に進学して

須藤 翼

私は福島県立医科大学医学部医学科に在籍しています。大学生活についてですが、初めの1週間ほどはオンライン授業でガイダンスを行いました。オンライン授業中心で対面授業は行わないと思っていましたが、すぐに対面授業が始まりました。授業は一限が60分と高校とほぼ変わらず、それが長く6限目まで続くといった形態で1日が回っています。

やはり、福島県立医科大学に進学して実感したことは周りのレベルの高さです。思考力が高い人や勉強も運動もできる人など、個性豊かな人達に囲まれて過ごしています。教授陣も全力で私たちのサポートをしてくださるため、勉強のモチベーションを高く保てています。大学の授業は大変難しく、高校の内容を発展させたようなものから、高校では全く触れもしなかった内容を扱うものまで様々でした。特に、物理と生物を両方履修しなければならぬ点に苦戦しました。また、様々な授業があり、幅広い知識を身につけつつ、様々な経験を積むことができます。また、実習授業も充実しており、大学病院で実習をすることで経験

を積むことができます。特に病院実習は患者さんとのコミュニケーションを通して今後の自分について考え、医師になるという決意を固めるきっかけとなりました。

大学生活は自由時間が増えると言われていますが、福島県立医科大学は少し特殊です。ほぼ全ての科目が必修となっており、思ったより平日に自由な時間はありません。しかし、自由度が高校よりも増した大学生活はとても楽しく、学校終わりに友人と夜ご飯を食べに行くということも珍しくありません。

入学してみると高校とあまり変わらないなかった大学生活ですが、このようなレベルの高い環境で勉強できてとても満足です。今後も勉強に励み、立派な医師になれるよう精進していきます。

筑波大学に進学して



吉田 祥平

私は筑波大学総合学域群第1類に在籍しています。現在筑波大学では新型コロナウイルスの影響によりほとんどの授業がオンラインで行われており、キャンパスに赴くことはほとんどありません。しかし、サークル活動の制限もなくなり秋学期からは少しでも対面授業を増やそうという動きがみられ、

活気づいたキャンパスを見られることを楽しみにしています。

大学では多くの人と交流し、高いレベルで刺激を受けることができます。筑波大学では他学類の講義が履修しやすくなっています。筑波大学では他学類の講義が履修しやすくなっています。筑波大学では他学類の講義が履修しやすくなっています。

自分が希望する学類に行くためには、無事に目標を達成できるように必死に勉強しています。これまでも違う大学では様々な面で自由になりました。そのため自ら目標を設定し、行動していかなければいけないと思っています。私は時間を有効活用しプログラミングの勉強をしたり、読書や語学に時間を割いたりしています。現在はほとんどがオンライン授業であるため思うようにいかないことも多々あります。しかし、オンライン授業だということを逆手にとって時間を有効活用し、柔軟に生活することができます。このように自由に使える時間で勉学に励み、移行した先でもやっていけるような知識の基盤を築いていきたいと思っています。

新型コロナウイルスが収束したからより人との交流を増やし、大学でしかできない体験がよりできることを楽しみにし、未来を見据えて努力していきたいと思っています。

東北大学に進学して

本多 葵

私は現在、東北大学法学部に在籍しています。大学に入学してから約半年が経ち、大学生活にも慣れてきました。前半期の講義は、新型コロナウイルス感染症の影響でほとんどがリモート授業でしたが、後半に入ってから対面授業が主となってきて嬉しいです。

大学では高校の時とは異なり自分で時間割を決めます。そのため自分が学びたいことを学ぶことができます。東北大学の法学部では、低学年の時に主として教養科目を取り、高学年の時に専門科目を学ぶことが想定されているようです。教養科目では文系学部の学生でも幅広い学習をすることができます。自分の興味関心にあった講義を選ぶことができるため、楽しく講義を受けることができます。また、

大学には全国各地からの学生や留学生など様々なバックグラウンドを持った学生が集まっています。授業の際に、自分とは異なる学生たちの意見を聞くことで、刺激を受けることがたくさんあります。次に、サークル活動についてです。東北大学には様々なサークルがあります。また、東北大学の法

学部には自主ゼミというものがあります。自主ゼミとは法学部生だけが入ることのできるサークルのようなものです。私は、サークルには参加していませんが、自主ゼミには入っています。私が入っている自主ゼミでは、ある一つのトピックを決めてそれについて議論したり、問題の解決策を考えたりする活動を行っています。同級生だけではなく、法学部の先輩と意見交換などの交流ができてとても楽しいです。

大学に入学して、今までにはなかった新しい経験をたくさんしています。これから、充実した大学生活を送るために様々なことに挑戦したいと思っています。後輩の皆さんも、志望大学合格に向けて受験勉強を頑張ってください。応援しています。

埼玉大学に進学して



橋本 あんず

大学に進学して半年が経ちました。大学での勉強や初めての一人暮らしにも慣れ、毎日楽しく過ごしています。今回このような機会をいただいたので、大学での様子を少し紹介したいと思います。大学はとても自由なところですが、服装や髪型が自由なことはイメージでわかるとは思いますが、授業も

部活動報告

第69回 全国高等学校 剣道大会に出場して

剣道部顧問 滝口晃一

自由です。大学は高校とは違い時間割を自分でつくりまします。そのため、必修科目以外は好きな授業を受けることができます。埼玉大学は1つのキャンパスにすべての学部があるため、ほかの学部の授業を受けることもできます。私も高校の時に世界史が好きだったこともあり、経済学部だけで教養学部の西洋史の授業を受けています。学部の問わず興味のあることを学べるのはこの大学の魅力の1つだと思います。

またお友達に誘われていったサークルの見学がきっかけで、アコースティックギターをはじめました。はじめのころは何も弾けなかったけれど、お友達や先輩のおかげで曲が弾けるようになりました。今は、11月末に行われる学祭に向けて練習しています。私が入っているサークルはゆったりしていて、気が向いた時に遊びに行くような感じで楽しめています。自分のために使える時間が増えたからこそ新しいことにチャレンジしてみてもよかったです。来年は趣味だけでなく勉強面でも時間を有効活用し、資格を1つでもとることを目標に頑張りたいです。

ほんの一部しか紹介できませんでしたが、大学の様子がなんとなく伝わったのではないでしょうか。大学もいろいろありますが、高校も同じくらいいいところだと思います。高校生の時にしかできない貴重な体験を今のうちに楽しんでください。白高生一人一人の希望進路が実現できるように心から願っています。



白河高校女子剣道部は八月五日から八日まで、高知県立春野総合運動公園体育館にて行われた令和四年度四国インターハイに個人戦と団体戦で出場してきました。昨年度の悔しさをバネにして稽古を積みできたこの一年間の成果を發揮し、全国制覇という目標達成を目指して挑んできました。まず、個人戦は二年生の丹野菜々子が福島県の第一代表として出場してきました。緒戦は東京都代

表の木村選手(淑徳巣鴨高校)との対戦でした。終始優勢に試合を進めていましたが、一瞬の隙をつかれ、胴を決められてしまい緒戦敗退となってしまいました。まだ2年生ということもあり、この経験が今後に生かしてもらいたいと思います。

団体戦予選リーグの対戦相手は、岩手県の盛岡白百合高校と長崎県の長崎西陵高校でした。まず、盛岡白百合高校との対戦ですが、相手チームに先行され、他の選手も有効打突を決めることができないまま大将戦になりました。大将を務めた三年生の井上桃花が試合を優勢にすすめ、面を決めたことで勝者数・取得本数それぞれ同数の引き分けとなりました。続く長崎西陵高校との対戦では、相手選手に先制されることが多かったのですが、そこで気持ちを切り替えずに果敢に攻めることで有効打突を取り返していきましました。しかし、この試合ももう一步のところでは技が決まらず、チームとして引き分けとなりました。先の盛岡白百合高校と長崎西陵高校の対戦では長崎西陵高校が勝利しているため、白河高校は予選リーグ2位となり、予選リーグ敗退となりました。それぞれの試合において善戦し、チームとしての負けは無かったのですが、全国大会で勝利することと決勝トーナメント出場の壁を超えることの厳しさを痛感した悔しい大会でした。

最後になりますが、多くの方々からの御支援をいただき、ここまで活躍することができました。本当にありがとうございます。新チームでは、またインターハイの舞台に出場し、全国制覇達成を実現するために、切磋琢磨していきます。今後も応援をお願いいたします。

とうきょう総文に参加して

書道部3年 穂積 真緒

私は八月二日・三日に東京都で行われた第四十六回全国高等学校総合文化祭の書道部門に参加しました。

東京都美術館に展示された自分の作品を見て、自分が福島県、白河高校の代表として参加できたことをとても誇らしく感じました。また、他の都道府県の作品はどれもレベルが高く、勉強になることばかりで圧巻でした。そして、同じ福島県代表として大会に参加した他四名の作品も、昨年の冬に行われた強化錬成会よりも磨きがかかっていて、私にとって刺激の多い二日間でした。

二日目に行われた交流会では、東京都で江戸時代から作られている和紙に江戸文字を書いてミニ卷子本の制作をしました。同じ班の人は初めて話す人ばかりでしたが、作品や書道のことを話して親交を深

めることができ、他県の人と交流の輪が広がって、とても嬉しかったです。

私は今回の大会に向けて約一年かけて作品制作に取り組んできました。私が出品したのは「香紙切」という仮名の作品です。残念ながら今回の大会で受賞することができませんでした。悔しい気持ちもありますが、高校入学前から目標としていた全国大会出場を達成することができて、一年間頑張ってきたという嬉しさもあります。

今回の大会では、自分の今後改善すべき課題や反省点を知ることができたので、これからも練習を重ね、さらに良い作品を作りたいと思います。また、新しい書道のジャンルにも挑戦し、書道の世界についてもっと理解を深め、多くのことを学んで生きたいと思っています。最後になりますが、顧問の真紀先生をはじめ、熱心にご指導くださった方々、最後まで応援から感謝しています。本当にありがとうございます。



支部だより

東京登龍会の近況

登龍会会長 遠藤泰司(高9)

令和4年の総会は、新型コロナウイルスの災厄が完全沈静とならない中でしたが、メンバー達の3年間の空白を埋めて早く顔を合わせたい熱意に押されて、6月18日開催にこぎつけました。出席したくても、外部イベントへの出席が許されない会社・団体も多く、また多くの方は、ご家族の不安を背に受けて、敢えて出席を決断いただきました。結果としまして、ご来賓を含めて約70名という例年の総会に近い人数が、上野の森に集い大盛況となりました。ご来賓として、鈴木白河市長はじめ鈴木同窓会長、矢森白河高校校長と役員の皆さまのフルメンバーのご来臨をいただきました。白河のそして白河高校の最新のニュースは、私共への励みになったばかりか、来賓者とメンバーとの直接交流がうれしく、懇親会場が喜びで弾けました。白河高校新卒でめでたく首都圏の大学進学を果たした6名の学生諸君にも、意気上がる東京登龍会の姿を見てもらえたのが何よりでした。今回の記念講話は、「日本資本主義の父渋沢栄一と白河」と題して東京登龍会の庄田育夫副会長が務めました。講師の周到な構成・準備

がまことに素晴らしく、渋沢栄一翁を語る講師の情熱に、一同深い感銘を受けました。

総会後の今年の活動としまして、企画委員会行事を順次再開することとしました。手始めに、10月31日にフォーラムの開催を決めました。演題は「人生は2幕目が面白い」(赤間廣常任幹事)、会場は港区生涯学習センター。昨年からの新任の常任幹事と幹事が併せて20名加わったので、メンバー同士の親睦を深めることを主目的とする勉強会です。

さて白河高校創立100周年記念式典が迫っております。東京登龍会では、メンバー99名の寄附金拠出が確認されております。メンバー一同、式典の盛会をご期待申し上げます。以上



棚倉支部総会開催報告

支部長 藤田昌美(高18)

令和3年度の棚倉支部総会を11月19日に棚倉町の新富家で開催しました。来賓には鈴木雅文同窓会長、金澤隆夫同窓会副会長、安部誠教頭を迎え、小河原康広副支部長のこたばに次いで物故会員に黙祷、校歌斉唱、支部長挨拶、来賓祝辞がありました。

鈴木会長から、令和4年度に創立100周年を迎えるにあたり「100周年事業委員会の記念誌編纂部会、式典部会、記念事業部会、募金部会」の活動報告があり、安部教頭からは、生徒の学校生活、進路状況、部活動等の現況報告がありました。

議事では、令和2年度定期総会経過報告、会計報告などを審議し、藤田智之副支部長の閉会のことばで総会が終了しました。

その後、昨年同様コロナ対策を施しながら懇親会を催し、親睦を深めました。今年度も11月下旬に支部総会を開催する予定です。

埴支部の活動

支部長 石井久雄(高22)

新型コロナウイルス感染症流行のしつこさにはそこそこ舌を巻いております。

それでも10月22日に創立百周年の記念式典・記念講演会・祝賀会

が滞りなく挙行され、成功裡に終了しましたことに對しまして、改めてまして鈴木実行委員長を始めとする関係各位に深い感謝の念を表します。

私たち埴支部も昨年の11月25日にコロナが少し弱火になった隙を狙い、支部として100周年記念事業の寄附金収集に少額でも協力しようといつも利用させて頂いているレストラン「花屋」で忘年会を兼ねて役員会を開きました。終盤になると店主も一緒になり久しぶりに酒を酌み交わしました。閉会近くでは「来年は絶対に支部総会を開催するぞ!」と息込んだのですが、現在の状況からするとちよつと無理かなと思う今日この頃です。

来年は是非、コロナが去り、総会を開催しマスクを外し、顔を見合わせ、声高らかに「西秀麗の那須の峰……」と校歌を正々堂々と歌いたいものです。

表郷支部活動状況

支部長 芳賀憲市(高19)

当初、支部総会をコロナ禍のため、9月10日を予定しておりました。そのため、7月24日の役員会を開催しましたが、折しもコロナ変異株の感染拡大第七派のさなかとなり、総会の延期を余儀なくされました。

今後、11月22日に再度役員会を開き総会の日程を調整する予定であります。

西郷支部の近況報告

支部長 金澤隆夫(高23)

西郷支部では、例年8月末に総会を開催していましたが、新型コロナウイルス感染症防止のため、今年度も書面議決による開催となりました。

また、白河高校創立100周年記念事業の寄付金集めに協力するため、役員会において寄附金納入者の確認を行い、未納入者への働きかけを行いました。

矢祭支部便り

支部長 木村芳朗(高19)

令和3年度の総会は、新型コロナウイルスの影響により役員のみで、10月9日に実施しました。また役員改選については、現役員が留任することとしました。同時に矢祭町内の夕刊紙に、創立100周年式典のお知らせと記念事業への寄附金をお願いを、記事と広告で掲載しました。

今後の活動については、コロナの状況を観察しながら、クラブ活動の大会や発表会の応援や見学などを考えています。在校生の皆さんには県南の県立高の雄として、文武両道二刀流での活躍を期待しております。

最後に総会や懇親会が、以前の様に出来る日が一日でも早く来ることを切に願っております。

泉崎支部の動向及び活動報告

支部長 箭内清和 (高26)

令和3年に白河高校同窓会より、泉崎支部の設立の要請を受けました。早速有志数名で「泉崎支部設立準備会」を立ち上げ、先輩方のご意見をお聞きし検討した結果、一度支部の皆さんにお集まり頂き、ご意見をお聞きする場を設けることになりました。

同窓会名簿をもとに各地区ごとに、協力してくれる方々依頼し、60歳以上80歳未満の泉崎村に在住している白河高校同窓生に案内をして、令和4年3月27日に泉崎村防災センターにて、「泉崎支部設立説明会」を開催しました。20名の参加者があり協議した結果、「泉崎支部の設立」について賛同が得られ、役員についても承認をいただきました。また、当日参加した皆さんには早速「支部会員」になっていたいただき、泉崎支部はあくまで「会員になることに賛同した者」をもって組織することを確認いたしました。

今後は役員を中心に「若い世代」にも声をかけをして、会員数を増やし、今年度中に「設立総会」を開催し、支部の規約や活動方針等について協議したいと考えています。

図書館だより

図書主任 嶋原久美子

創立100周年を迎えた本年度、図書館では同窓会より多大なるご寄付をいただき、学問の探究や、小論文対策に有効な書籍を多数購入させていただきました。また、同窓生嶋倉晃様(高一)には、平成

元年度から令和3年度にかけて、総数にして5024冊、総額1640万円分の書籍を「嶋倉文庫」としてご寄贈いただきました。嶋倉様をはじめ、同窓生の皆様のご厚情にはより感謝申し上げますとともに、皆様から頂戴した知の遺産たる書籍を末永く受け継ぎ、後輩のために活用させていただきたいと心持ちを新たにしております。

読書週間の初日となる10月27日(木)には、図書委員会主催のピリオパトルが開催されました。いずれも個人的なパトラー(発表者)が、知のパトルを繰り広げ、過去最高、49名の観戦者が見守る中、一年一組の古賀瑛士さんが最優秀発表者に選ばれました。同窓生の皆様には、今後とも後輩の活動に対する温かなご支援を賜れば幸いです。

後援会だより

後援会会長 櫻井和朋(高12)



令和四年の第十九回後援会総会は、令和二年・三年と同様、コロナ感染拡大により、書面の開催・承認となりました。今年度は創立100周年記念事業として、後援会より登龍会館に「大型モニター」を設置いたしました。

校内行事につきましては、春の創立記念マラソン大会は中止。秋の郡内一周駅伝大会は完全実施となりました。沿道で応援の皆様に、白高生の元気な姿を見せることができました。

ところで、学校創立時発足した部は、柔道部、相撲部、剣道部、

徒歩部、野球部でした。野球部は、百周年を記念してOB会「登龍クラブ」が照明のLED化、屋根付ブルベンの設置、百周年記念誌・名簿の発行、部室内装の新調を行いました。

記念誌によれば、夏の県大会優勝二回。昭和十三年(監督・櫻井直一郎)、昭和二十一年(増子登)。秋の県大会優勝一回。昭和六十年(八槻梓)。春・秋の東北大会出場六回。布川澄夫、佐川尚史、箭内寿之の各監督です。

私は審判委員として、夏の甲子園に出場いたしました。夏は甲子園に生徒と一緒に来たかったと、しみじみ思いました。今夏の第百四回甲子園大会は、仙台育英が優勝し、優勝旗が白河の関を越えました。関跡の石碑「白河関跡」の文字は、白高の甲子園出場を願った櫻井直一郎の筆跡です。

さて私は、昭和三十九年に新卒で白高に赴任、以後教諭として、また退職後は同窓会、PTA、後援会の役員として、現在まで約六十年切れ目無く白高に関わってきました。このたび、創立百周年を機に退任させていただきます。

思えばこのように永く、楽しくお付き合いできたのは、まさに白高時代からの「よき師よき友」のおかげと感謝しております。水泳の田崎一宇君などの級友。内藤豊次郎先生を始めとする多くの恩師。また、校長先生としては、男女共学発足時の柴山進校長、エアコン設置時の坂上正美校長、さらに高校野球をこよなく愛した田中誠校長など、立派な教育者の皆様に、大変勉強させていただきました。本当にありがとうございます。今後の白高の益々の伸展をお祈りいたします。

訃報

車田 智弘 (高10)	令3・12・26
有我 弘 (高23)	令4・3・9
橋本 忠正 (高5)	令4・3・14
相川 康治 (高24)	令4・4・19
星 輝夫 (高5)	令4・5・18
渡辺 薫 (中19)	令4・8・15
渡邊 満男 (高2)	令4・9・10

叙勲等

令和3年秋の叙勲	
双石芳則 (高20)	瑞宝小綬章
三森 繁 (高18)	瑞宝双光章
大倉 隆 (高24)	瑞宝双光章
令和4年春の叙勲	
関 元行 (高19)	旭日双光章
令和4年秋の叙勲	
令本年三 (高22)	瑞宝小綬章
先崎文雄 (高20)	瑞宝双光章
三瓶准一 (32代校長)	瑞宝双光章

(叙勲、訃報は学校内同窓会事務局にご連絡のあった方々をお載せしました。)

賛助金納入のお願い

会報第144号を高54回卒業までの皆様にお届けします。皆様よりお寄せ頂く賛助金は、10頁の予算・決算書にご覧頂きますように、本会の活動と母校への援助のために使われます。令和3年度は二、五八〇、三六三円をご協力頂きました。感謝申し上げます。

上げます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。賛助金は、一口一、〇〇〇円できるだけ二口以上でのご協力ください。郵便振替番号 〇二一〇〇一四二七七四 加入者名 福島県立白河高等学校同窓会

編集後記

今号は、例年より4ページ増やし、「創立100周年記念号」として特別編集いたしました。10月22日は厳粛かつ心のこもった、白河高校に相応しい記念式典となりました。当日出席できなかった会員の皆様にも、会場の雰囲気をお伝えできたかと思えます。式典に合わせて「創立100周年記念誌登龍」も刊行されました。コロナ禍で様々な制限を受けた中、完成に向けて最後の追い込み作業は大変なご苦労であったとお聞きしています。改めまして執筆・編集に当たられた、大岡清一編集委員をはじめ関係者の皆様に、心からの敬意を表します。

今夏の甲子園大会では東北地区の高校に初めて深紅の大優勝旗が渡りました。二〇三三年の「創立110周年記念誌」には、母校野球部の甲子園初出場をはじめ、後輩諸君のさらなる文武両道での活躍が記載されることを祈ります。

会報編集委員会	
会報担当	金澤 隆夫 (高23)
同窓会副会長	堀川 哲雄 (高15)
編集委員長	堀川 哲雄 (高15)
編集委員	瀬戸 安夫 (高22)
事務担当	横村 勝己 (高37)
〃	鐘水 実 (高33)
〃	高田 良一 (高32)
〃	鈴木 諒 (高67)